

令和3年度 全日本選手権ジュニアの部予選 開催・実施時の感染防止策

9月26日(日) ロートアリーナ奈良

1. 当日の参加受付時の対応

- (1) 受付デスクに手指消毒剤を設置する。
- (2) 本部席スタッフ(役員)はマスクを着用する。
- (3) 本部席での接触を極力避けるための措置として、
 - ① 参加料は、銀行振込とし当日の集金はしない。
 - ② 参加料の領収書は、本部席横に設置した机に並べ、各校で持ち帰る。
 - ③ プログラム(組合せ)は事前にメールにて配信し、当日の配布はしない。
 - ④ 会場入り口および本部席に「(様式2)健康状態申告用紙集約」提出用のトレーを設置する。生徒から回収した(様式1)健康状態申告用紙も提出する。

2. 会場滞在中の注意事項

- (1) 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないようにアナウンスする。
- (2) 今大会における落とし物・忘れ物については、感染拡大防止の観点から、当日の試合が全て終了した時点で処分するので、荷物や貴重品は各自・各校で責任を持って管理するようアナウンスする。
- (3) 試合をしている時以外(受付時・着替え・観戦・表彰式・審判等)は、必ずマスクを着用する。
- (4) マスクを着用していたとしても、大声での応援などは控える。
- (5) 観客席に座るときは、横にバッグを置くなどして、隣の人との距離を保つ。
- (6) ミーティングを開く際は、選手の間隔を十分に確保した上で行うこと。
- (7) 飲み物やタオル等、個人で用意した物については、他人と共有しないこと。
- (8) 無観客とし、負けた選手は審判終了後顧問の指示を受け速やかに帰宅する。
- (9) 食事は選手ごとに時間をずらしてとり、食事中は絶対に会話をしない。

3. フロア内での試合について

- (1) 競技フロアへの入り口(アリーナ4隅、第2体育館は入り口)に消毒液を配置し、入場の際は手指を消毒する。
- (2) 大会の進行状況を見ながら、必要に応じて換気を行う。
- (3) 選手同士の距離を保つため、卓球台の設置は十分な間隔を開けて(4m以上)設置する。
- (4) 選手が使用するタオルは、卓球台の審判(カウンター)側のサイドライン下にかけること。
- (5) ベンチコーチは、各コート真後ろに座り、隣のコートとの距離を保つこと。また、必ずマスクを着用し、アドバイスは距離をとって行うこと。団体戦のベンチもできるだけ距離をとること。
- (6) ゲームごとのチェンジエンドは行わない。
- (7) タオルの共用はしない。また、飲料なども自分専用のもので飲み、回し飲みはしない。
- (8) 卓球台の上で手を拭いたり、シューズの裏を手で拭くことはしない。
- (9) 握手などの身体を接触させる挨拶は行わない。
- (10) 審判は、カウンターを使用する前後に必ず手指消毒を行う。
- (11) 各試合終了後、その試合の審判は、コートに設置しているミニコーンを卓球台の上に置く。
- (12) 各試合の敗者は、試合終了後、対戦表と使用したピン球を本部席に持ってきて、ピン球は「回収箱」に、対戦表は進行係に渡して、次の対戦表と除菌シートを受け取り、タオル掛けを除菌した後審判に入る。